

## 内裏雛と金屏風

「<sup>おだいり</sup>大内裏 殿」「<sup>おだいり</sup>大内裏 姫」は、五節舞人形が作られて少し後、大正9年～12年にかけて作られました。「首、手、冠ハ 東京十軒店 玉貞調製」と箱裏に記録されていることから、「五節舞人形」を改修したときと同じ店に頭部や手を注文していることがわかります。女雛の裳には「五節舞人形」と同じように、鳳凰と植物が手描きされています。

また、両脇の「左近の櫻」と「右近の橘」も雪章の手作りです。

「<sup>おだいり</sup>大内裏 殿」「<sup>おだいり</sup>大内裏 姫」が制作された同じころ、弟子の石山太柏



(東根市出身)による「金地柳櫻之圖 御雛屏風」を誂えました。手前に飾られた「雛道具 一揃」を購入したのもこの頃です。

約 100 年前に作られ、このたび十数年ぶりに公開されることとなりました。ぜひごゆっくりお楽しみください。



旧柏倉喜作家 ひなまつり 2023 リーフレット

令和5年3月発行

お問い合わせ：NPO 法人 柏倉家文化村

山形県東村山郡中山町岡 17 (みんなの居場所 岡縁里)

TEL (023)666-3900

ホームページはこちらから →

※ 人形の箱および舞姫の後ろ姿の写真は中山町教育委員会作成の「柏倉喜作家人形目録」から転載させていただきました



2023 柏倉九左衛門家ひなまつり

旧柏倉喜作家 ひなまつり

柏倉雪章の手作り内裏雛・五節舞人形

## 柏倉喜作家の雛人形

柏倉喜作家は、柏倉九左衛門家のカマエ（一族）で、喜右衛門家から1817年に分家しました。屋号でカネキとも呼ばれます。

喜作家第4代当主 喜十郎（明治11年～大正14年）は絵心があり、中山町の画家、小松雲涯に弟子入りしたのち、上京して川端玉章に師事しました。玉章より一字を戴き、画号を「雪章」と名乗りました。当主としての役割を担うためこの地に戻った雪章は、47歳で亡くなるまで絵画の世界に留まらず人形や切

り絵などの作品を残しました。

柏倉喜作家には現在、屏風や雛道具を含む人形類が24箱、飾り棚が5組残っています。人形の種類は主に「押し絵人形」と「衣装人形」の2種類ですが、その中間ともいえる表面は立体的な作りで背面は平面的で意匠していないものもあります。人形は雛人形はじめ、六歌仙、歌舞伎関係、故事になったものなど多岐にわたります。そして、そのほとんどが柏倉雪章自ら手作りしたものであることが大きな特徴です。